

第2回国際園芸アカデミー有識者会議事概要

開催日時：令和2年12月24日（水）11:00～12:00

開催場所：県庁4階 特別会議室

出席者：磯村 信夫 日本花き振興協議会 会長
加藤 孝義 清流の国ぎふ花き戦略会議 会長
柿本 亜矢 (公社)日本フラワーデザイナー協会 岐阜県支部長
橋 俊光 (一社)日本公園緑地協会常務理事
松尾 真吾 岐阜生花市場協同組合 理事長
澤田 みどり NPO 法人日本園芸療法研修会代表理事
田中 治 岐阜県高等学校農業校長会 会長
櫻井 宏 岐阜県農業協同組合中央会 会長
上手 繁雄 (一社)岐阜県観光連盟 相談役
上田 善弘 花フェスタ記念公園 理事
涌井 史郎 東京都市大学特別教授
河合副知事 計12名

1 議 事

「国際園芸アカデミーの目指す姿について」

- ・国際園芸アカデミー開学から現在までの変遷と検証について〔農産園芸課〕
- ・国際園芸アカデミーの優位性と向上を図る事項について〔農産園芸課〕
- ・国際園芸アカデミー ～改革素案～ 〔国際園芸アカデミー〕

2 委員の主な意見

- ・業界の求める人材育成として、まずはマーケティング・ICT・経営指標の見方、経営計画の作り方を修得できる教育によって学生を鍛えていけば盤石なものになっていくのではないか。
- ・国際園芸アカデミー（以下、アカデミーという。）が花フェスタ記念公園に移転すれば良くなるわけではない。学生が目指したいと思える学校にするためには、時代は大きく変わっているので体質改善が必要である。
- ・学生自らSNSを通して魅力を発信するような学校となるべき。また、学校からも積極的に情報発信するといったハード面よりもソフト面を改善する必要がある。
- ・社会性やコミュニケーション等幅広い教育には高校だけではなく社会人も対象とし多様な学生を受け入れるべき。
- ・花フェスタ記念公園へ移転を議論する段階ではない。移転したからといっ

て生徒が良くなるわけではない。県の花と緑の産業に寄与する学校として生徒が行きたいと思う学校とすべき。

- ・ 少子化の時代で学生確保が困難なため、再就職を目指しているような社会人への対応も必要である。
- ・ 高校の教員とアカデミーの教員との人材交流を積極的に進め、新たな知識や高度な技術の修得、教育の質の向上を図り、両者の資質を高める事が必要である。
- ・ アカデミーとして「花と緑」の両翼を担うのか否か。何をやるのか、どういうコンセプトにするのか、時間をかけて抜本的な議論をした方がいい。
- ・ 生産・装飾・造園の3コースが独立しており、連携が取れていない。コースの壁をある程度取り払い、3つの分野が共同しあえる教育が必要である。

座長（総括）

- ・ 花と緑が調和した街づくりを行っていかねば花の需要は伸ばせない。
- ・ 1990年の大阪花博の後、花の需要が大きく伸びた。2027年に横浜で国際園芸博が開催されるので、それをきっかけに花き需要が増加・維持できるような視点も含め、現在の理念は引き継ぎながら、アカデミーを新たに再構築すべき。

副知事（所感）

- ・ アカデミーの抜本的な見直しに向け、業界、学校、学生にとって良い学校へと目指すべく議論を深める必要がある。
- ・ 来年度末を目途に、学校を移転する・しない及び一部の移転も含め、今後のアカデミーの方向性を示していきたい。